

編集後記

(57巻 第11号 2011年11月)

ニュージーランドで開催されていた第7回ラグビーワールドカップが開催国ニュージーランドの優勝で幕を閉じた。フランスとの最終戦はAll Blacksの圧倒的優勢が予想されていたが、1点差という緊張感あふれる決勝戦となった。第1回大会の優勝以来、つねに世界ナンバーワンといわれながら決勝戦にすら出ることが出来なかったAll Blacks。やはり24年のプレッシャーはAll Blacksにさえ十分なパフォーマンスを許さなかった。ただ、優勝は優勝。また、最後の数分間のディフェンスは見事だった。オタゴ大学留学中のボスにお祝いのメールを送ったが、かなりひやひやしたようで、その夜はお祝いで飲み過ぎたとのことだった。

日本はカナダと引き分けたものの1勝も出来ない予選リーグだった。残念ではあるが、初戦のフランス戦は見応えがあり将来を期待させる試合だった。8年後は日本でのワールドカップ開催の可能性もあるという。サッカーに完全に押されっぱなしのラグビーであるが、これを機会にまた若い世代のラグビー人気が増えることを期待している。

(小川 修)